

2013年度外国人留学生入学試験「実技試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	実技試験(芸術学科は小論文)	面接		
	狙い・意図、採点のポイント	狙い・意図、採点のポイント	小論文利用	実技試験作品利用
油 画	タンクトップ、短パンを着た女性モデルが椅子に座っている。この服装であると人体そのものの骨格も見やすくそれらを捉える総合的な表現力をよりストレートに見ることができると考えた。又、対象がシンプルであることから「見る」「描く」といったもっとも基本的な部分に表われるおのおのの独創性、想像性を作品から感じとりたいと考えた。	まず表現すること制作することへの意欲を強くもっているか、なぜ留学を希望し、その場として本学を選んだのか。又、学生生活において日本語でのコミュニケーションは十分とれるだろうか。このような点について面接、小論文、実技試験の作品から総合的に判断した。	●	●
版画	モチーフとして白い布(30×30cm)1枚、ガラスコップ1個を配布。「与えられたモチーフを自由に表現しなさい」という出題で行いました。どのように構成し描写したか、その技術力と構成力が採点のポイントです。	本学への留学理由、語学力、絵画の基礎技術と一般的な知識と就学意欲。	●	×
彫 刻	・対象をよく観察し、モチーフの構築やバランスなどが的確にとらえられているか。 ・モチーフと余白の構成など、画面構成が適切か。 ・ポリウムや構造が表現されているか。 ・物体の奥行や空間に対する意識があるか。 ・デッサンの色調やタッチ、モチーフの存在感などデッサンに個性的な感覚が表現されているか。	・本学への進学目的が明確か ・独自の研究テーマを持っているか ・具体的な志望領域があるか ・将来への展望が明確か ・自分の意思を明瞭に述べられるか。	●	●
工芸	形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写を確認する。また、鉛筆デッサンといえども、対象に向き合う際の作者の感動が伝わってくるような画面の雰囲気や表現力も期待する。	なぜ本学の工芸学科を選んだのか。そして何を学びたいのか。将来の展望などについて熱意と説得力のある答えを望む。 実技試験を終った感想を話してもらうことで、本人の制作についての考え方や取り組み方を再認識したい。 面接の受け答えと小論文において、本学の学業を達成するために必要な日本語の能力を確認する。	●	●
グラフィックデザイン	鉛筆デッサン ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の目的や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか 色彩構成 ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・造形力アイデアを明快でムダのない色彩と構成によって、美しく整理できているか ・完成度 手仕事としての仕上げが優れているか ・個性 品格、感性に優れているか	・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×	×
プロダクトデザイン	・理解力＝問題の把握、理解が適切か ・発想力＝アイデアが優れているか ・独創性＝他にないアイデアか ・実現力＝アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力＝アイデアが伝わる表現か	・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×	×
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な基礎的観察力と描写力、及び色彩表現力を問うことをねらいとして、ガラスの計量カップと黄色いガーベラをモチーフにして出題した。設問を正しく理解しているかどうか、正確な観察と独創的且つ調和的な構成がていねいにてできているかを採点のポイントとした。	ひとつは、授業についていくことが出来る十分な日本語力と造形力を有してかどうかを問うために、もうひとつは、テキスタイルデザインを学ぶための意志や志願の動機を明確に説明できるかどうかを問うことをねらいとして面接試験を実施。また、共通教育の小論文は日本語の記述力、表現力を見るために参考にした。	●	×
環境デザイン	環境デザインを学ぶ上で最低限必要な基礎的造形力、および基礎的デッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。	本学科の授業を理解できるだけの日本語能力があるか。日本で、また本学科で環境デザインを学ぶ意欲、目的意識がはっきりしているか。	×	●
情報デザイン :メディア 芸術 コース	日本語の「道」は道路の意味だけでなく、進路や人生など豊かなメタファーを含む言葉である。今回の出題の狙いは、「明日の」という形容詞があらわす「未来」や「希望」といった形のないものを、道にたくしてどう表現するかを見るところにある。構図や色彩あるいは仕事の丁寧さ細かさなど基本的な点を評価することは言うまでもないが、それに加え、課題を理解し、そこにどれだけ個性的な解釈を加え、表現しているかも採点のポイントになる。	面接試験のねらいは以下の能力をみることにある。採点のポイントはこれらを総合して判断する。 ・面接時の態度、言葉遣いをふくめたコミュニケーション力。 ・提出作品の内容。 ・提出作品の内容を限られた時間内にうまく伝えられるプレゼンテーション力。	●	●
情報デザイン :情報 デザイン コース	日常の中から着想するアイデアの幅と表現の多様性をみることが出題のねらいです。日常の中で使っている道具や素材と自分との関わりを考えることが求められます。文房具というモノだけでなく、記述することにつながる思いや自分自身との関係性、記述という行為そのものなども表現のテーマとなります。採点のポイントは、発見・構成・表現の3つです。テーマの中から何を「発見」して表現に結びつけたのか、それらを与えられた条件の中でどのように「構成」しているのか、自分の意図やメッセージを的確に「表現」できているかを評価しました。	質疑応答や、作品またはポートフォリオのプレゼンテーションを通じて、留学の意図や目標が明確かどうか、デザインに関する興味や基礎的な知識があるか、基本的な表現技術が身に付いているか、学科・コースの教育内容を理解しているか、日本語での基礎的なコミュニケーション能力があるか、などを問い、総合的に評価しました。小論文は質問内容の参考としました。	●	●
芸 術	日本語の習熟度だけでなく思考力をみます。論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、という点も判断基準となります。常識的にまとめた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	外国人留学生の存在は他の学生にとっても大きな刺激となります。面接試験では、直接本人と会って、日本語能力が十分であるか、芸術に関する最低限の基礎知識をもっているか、などを判定します。	×	×

全学科共通小論文

小論文の出題については、全般的に文章の組み立て方、論述の展開、要旨の明確さ等を通じて、自己の思考性の確かさを試すことをねらいとしている。また、美術全般への理解、特に我が国の美術文化への興味関心の度合いを知ることを目的として問題を作成している。
留学生入試においては日本語能力を試すことも大きなねらいとし、文意の明確さと誤字脱字等について、特に採点の重要ポイントにしている。